

はじめに

フランス城郭シリーズ 4 では、百年戦争を中心に説明してきた。14 世紀にはシャルル 5 世の城壁を完成したが、英軍にパリを支配され、英王ヘンリー 6 世はノートルダム大聖堂でフランス王として宣言した。しかし正規の戴冠式はランス大聖堂でなければ王として認められない。15 世紀にはオルレアンを中心に百年戦争が戦われ、ジャンヌ・ダルクの活躍もあり、王太子シャルルが勝利してランス大聖堂でフランス王シャルル 7 世勝利王として正式の戴冠式を行った。次のパリの壁はルイ 13 世の城壁であるが、シャルル 5 世の市壁からルイ 13 世の城壁までは 200 年近くあり、その間の情勢の変化を見なければならない。

補足資料 中世最後のフランスの最大事件は百年戦争だったが、城郭だけでなく戦いの事を補足しておく。百年戦争はフランス貴族同士の戦いであり、「英仏」は付けない。

図 1 は初期のクレシーの戦い
右が英軍で機動性に勝る長弓
Longbow を使用し、左の
Crossbow を使うフランス軍に圧勝
した。(出典：図説イギリスの歴史
河出出版社)



図 1

図 3 は、砲兵と多連装砲車、助手と銃兵

図 2～4 の出典は新紀元社発行
の、百年戦争のフランス軍



図 2

図 2 はシャルル 7 世勝利王



図 3

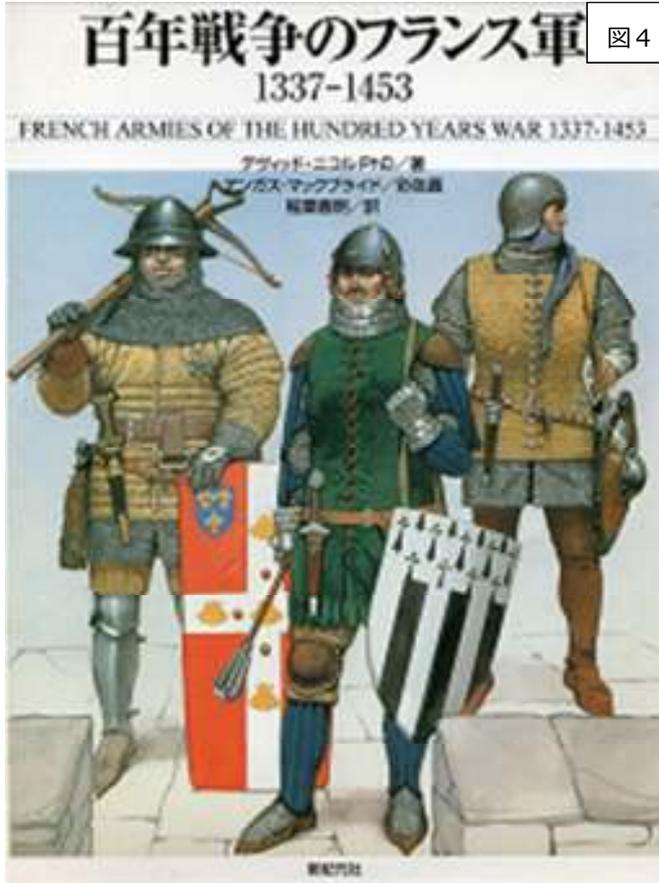


図 4

1. 14 世紀半ばから 15 世紀半ばまでの 100 年間

パリは、百年戦争中のイギリス軍進駐、国王シャルル 6 世の**狂気**が主な原因の貴族間の内乱、そして黒死病（ペスト）の蔓延などで疲弊していた。更に 15 世紀前半には厳しい冬と**飢饉**に襲われて、**狼**が町外れに出没しパリは 10 万人近くの住人を失った。15 世紀半ばにシャルル 7 世勝利王がパリに入城して勝利王にふさわしいと見えたが、実際は、シャルル 7 世と続くルイ 11 世の時代に**王権の中心はロワール地方に移動**する。1461 年、ルイ 11 世はランスで戴冠後政権をツールに定めた。（フランスの城郭シリーズ 番外編 その 1 第 2 項「ロワール川の古城めぐり」を参照）下さい。

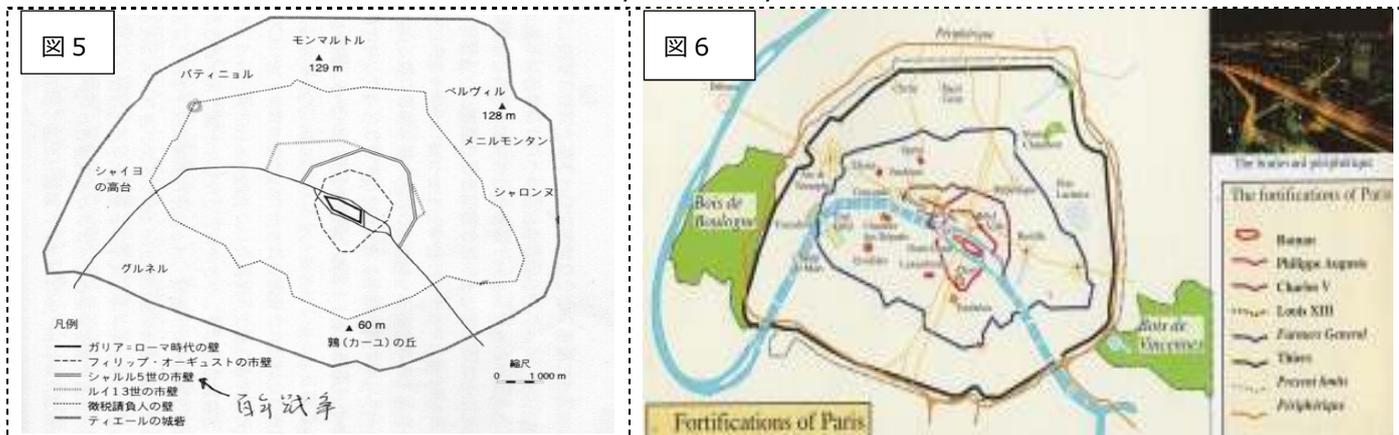
2. 中世から近代へ

「ヨーロッパの歴史時代区分は、ギリシア・ローマを中心の**古代**と**近代**の区分しかなくて、15 世紀頃に生まれた中間の時代を表す**中世**とは、「ほとんど重要性が無い時代」と、否定的な意味を持っていた。しかし、西ローマ帝国が崩壊した **5 世紀から 15 世紀**までの約 1000 年間は、単に空白時代ではなくて、キリスト教の布教、教会と改革などで、大きな変化があり、**近代に繋がる重要な時代**と認識するようになり、**中世**と言う時代が明確になってきた。（出典：世界の歴史 東アジアと中世ヨーロッパ、J.M.ロバーツ、創元社）、E テレで世界史担当の一橋大学副学長の 大月氏は、NHK では中世は 5～15 世紀。

中世の終わりは、フランスでは百年戦争が終結した 1453 年、イギリスでは百年戦争に続いて内乱が起き（バラ戦争）更に 30 年間混乱する。同じ 1453 年に東ヨーロッパでは東ローマ帝国（ビザンツ帝国）がトルコ族の**オスマン朝**に征服された。スペインでは 1492 年にアラブ人をグラナダから追放してレコンキスタが完了し、同年にコロンブスがアメリカ大陸を発見し、15 世紀後半にヨーロッパは大きく変化し、その後、時代区分は**近代**になった。フランス史では、中世の終わりにフランス革命までの 300 年を近世の他に、「**古い体制**」を指す「**アンシャンレジーム**」や「**絶対王政期**」とも呼ぶ。

3. ルイ 13 世の城壁とは何か？ →最初に引用した下の図 5 と図 6 に間違いがあり、苦勞話なので飛ばして結構です！

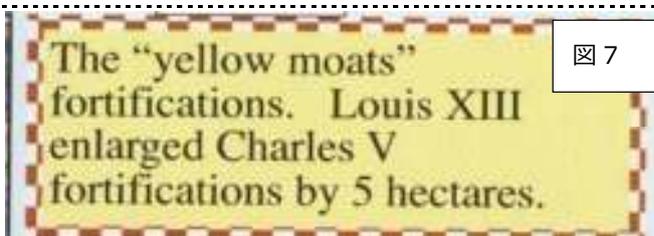
図 5 及び図 6 は、いずれも「フランスの城郭シリーズ 1」に掲載したものである。ガロ・ローマン時代からシャルル 5 世の城壁までは終えたが、次のルイ 13 世に着手するに当たって、「このような市壁・城壁は知らないな〜？」と気が付いて、自宅の関係図書を広げて探して、パリの歴史が専門の**カルナヴァレ博物館 Musee Carnavalet** で買った、学校の教室の後ろの壁に貼り付ける何メートルかの長い年表（Paris 20 Century of History）に気が付いて探してみると、色々分かってきた。



① 図 5 には、「ルイ 13 世の市壁」がありそれは、シャルル 5 世の市壁を左に拡張したように見える。これはフランスのイヴァン・コートの著書を小林茂氏が訳して、白水社から、「パリの歴史（新版）」として出版されたものである。

② 図 6 は、**年表**（Paris 20 Century of History）から引用したが、残念ながら図を拡大しても、どの部分が壁なのか分からないし、市壁か城壁かも記載がない。

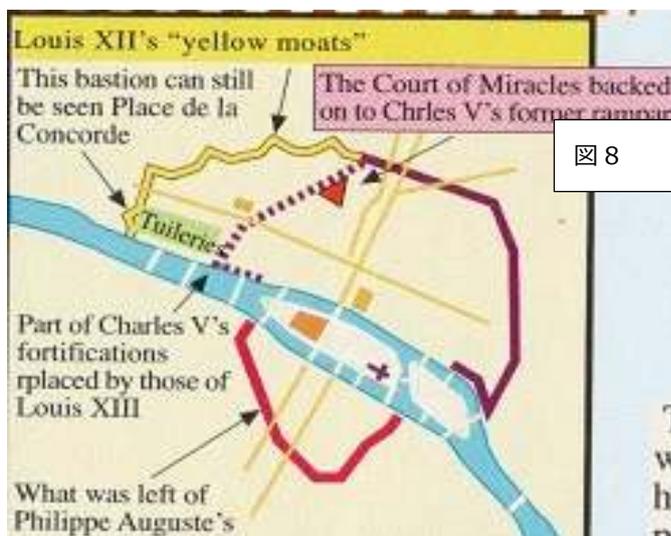
③ 図 7、図 8 も上記の**年表**から引用した。これによると、図 5 の「ルイ 13 世の市壁」と示されている所は「**ルイ 12 世の黄色い堀“Yellow Moats”**」と強制的に示されている。そして、シャルル 5 世の城壁の左 1/3 位の部分に、「シャルル 5 世の要塞の一部を撤去して、ルイ 13 世が



新しい要塞に置き換えた、これによって要塞は5ヘクタール拡大した」と書かれている。

- ④ 表題**ルイ 13 世の城壁**の考察結果 : 図 5 の場所はルイ 12 世(b1462-a1498-d1574)のお堀だった。ここでは参考資料の間違いを発見しただけだが、投稿を諦めるのではなくて、ルイ 12 世のお堀とルイ 13 世の拡張部の状態をしらべる。

注 : **英仏**百年戦争と英仏を付けないことは既に述べたが、筆者が英軍やイギリス軍と書くのも正しくないが正しくすると長くなるのでご容赦ください。



4. 1615 年に完成した鳥瞰図 (図 9)

出典 ABOVE PARIS Cameron and Salinger , ANDRE DEUTSCH

出典の写真集には図の原本や壁の説明がなく、図のどの部分が「**ルイ 13 世**の建設なのか？疑問は残る」

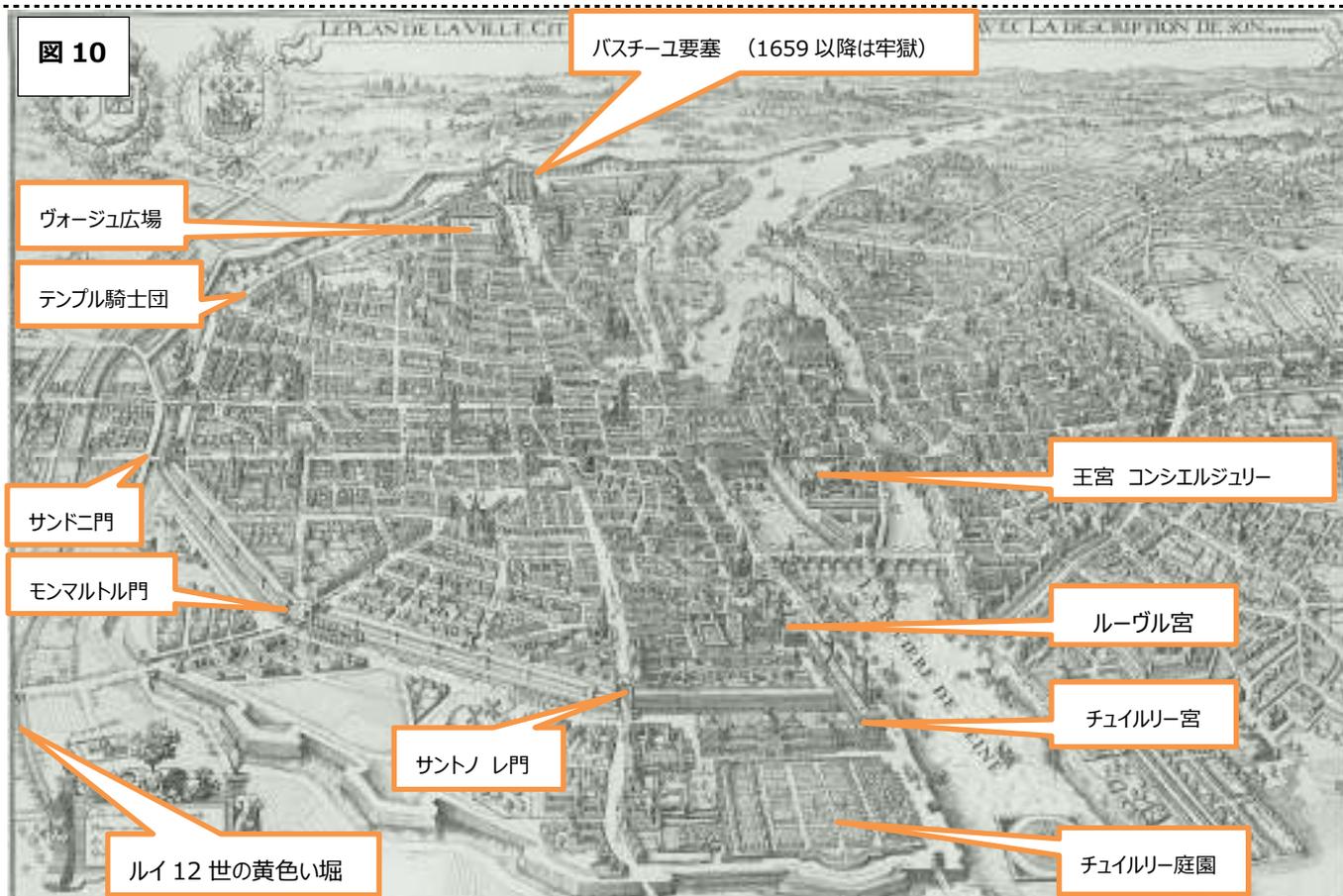


図 9 は、A3 サイズの写真集で、Cameron と Salinger の二人がヘリコプターからパリの主要な場所を撮影したものである。現在のパリの地形、建物、道路などを読者が中世と比較するために 17 世紀の鳥瞰図を引用している。この図は、セーヌ川の下流から上流を見ているので、この図では、川の右側が左岸、左側が右岸になる。左岸はローマ人が開いた地域で、小さな半円形の市壁は仏王フィリップ・オーギュスト(b1165-a1180-d1223)が 12 世紀に建設して以来大きくは変化していないが、右岸は 15 世紀にシャルル 5 世(b1368-a1380-d1422)が外に大きな市壁を建設した。図 10 も図 9 と同じだが、説明を記入するために白黒プリントした。

5. ルイ 13 世の市壁→城壁とすべき 図 9、図 10 の一部に「ルイ 13 世が関わった」と考える

近代に入って、ルネサンス王フランソワ 1 世(b1194-a1515-d1547)が拡張工事に着手し、アンリ 2 世、アンリ 4 世を経てルイ 13 世(b1601-a1610-d1643)が即位した 5 年後の **1615 年**に図のように完成している。1610 年に即位した時はまだ 9 歳であり、壁が完成した 1615 年には 14 歳で母が摂政であった。フランソワ 1 世が即位直後に拡張を始めたとしてもルイ 13 世が即位した年にはほとんど完成していたと思われる。以下に地図の説明を**筆者の想像**を含めて記載する。

- ① 右岸の市街はシャルル 5 世の市壁を残して、更に外部に壁を設け、星形要塞に見られる**陵堡**が追加されている。**城壁**
- ② 図 7 及び 8 には、サンドニ門からサントル門を越えてセーヌ川迄は、**ルイ 13 世**がシャルル 5 世の市壁を一部撤去して外側を拡張し、その外側に**陵堡**をもつ市壁が追加されている。これで 5 ヘクタール拡張できている。
- ③ サントル門からセーヌ川の間には、**チュイルリー宮**と**チュイルリー庭園**が完成している。
- ④ シテ島と左岸は市街に新しい建築が目立つが、市壁はシャルル 5 世時代と同じと考えられる。
- ⑤ シテ島の**王宮**は、1000 年頃に建設したが、シャルル 5 世は子供の頃に目の前で高官が殺害されるのを目撃し 1364 年に即位すると王宮を離れ、サンポール館を経て**ルーブル宮**に移った。王が去るときに王宮の運営をコンシエルジュリに託したので、その後裁判所や刑務所として使われる建物をコンシエルジュリと呼ぶ。**マリー・アントワネット**の独房がある。
- ⑥ テンプル騎士団本部は革命で王族の収容施設になっており、マリー・アントワネットの夫・**ルイ 16 世**が収容されていた。
- ⑦ バスティーユ要塞は、1357 年から建築開始されたが、1659 年以降は刑務所として使用され、1789 年のフランス革命勃発時に民衆により襲撃され、フランス共和主義の重要なシンボルとなった。革命後に解体され広場となっている。
- ⑧ ルーヴル宮は 1682 年にルイ 14 世が郊外のヴェルサイユに移るまで使われた。
- ⑨ チュイルリー宮は、1564 年にアンリ 4 世が建設し、ナポレオン・ボナパルト後の**ナポレオン三世**まで使われた。
- ⑩ ルーヴル宮とチュイルリー宮の間のシャルル 5 世の市壁が撤去された跡に現在の**カルーセルの凱旋門**が立っていると思う。
- ⑪ 第 3 項で説明した**カルナヴァレ博物館**の近くに**ヴォージュ広場**がある。貴族の屋敷があったが王家が取得しアンリ 4 世が広場にした。この地図が作成された 1615 年に**ルイ 13 世**が広場を囲む赤レンガの建物で結婚式をあげた。
- ⑫ 図 9 のカラー版で見ると、市壁の外に堀があり、ルイ 13 世が拡張した外側の壁の外にも堀がある。
- ⑬ 同じく、カラー版ではテンプル騎士団から下に向かって、**ルイ 12 世の黄色い堀**が見える。



付録1: ヴォージュ広場のルイ13世像 “足が短いな〜” 通りがかりのフランス人にシャッターを頼んだら上からの目線で撮られたかな？

図 11

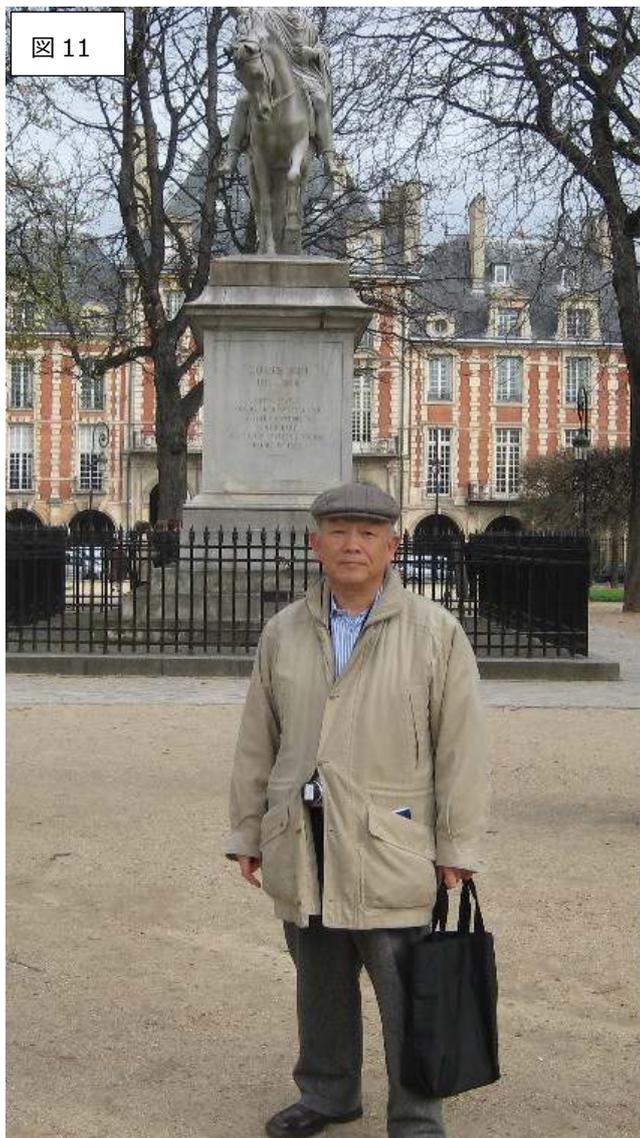


図 12



図 13



付録2 第5項 ⑤⑥ で登場したマリー・アントワネットとルイ16世の墓所を訪ねたので写真を紹介 @サンドニ聖堂

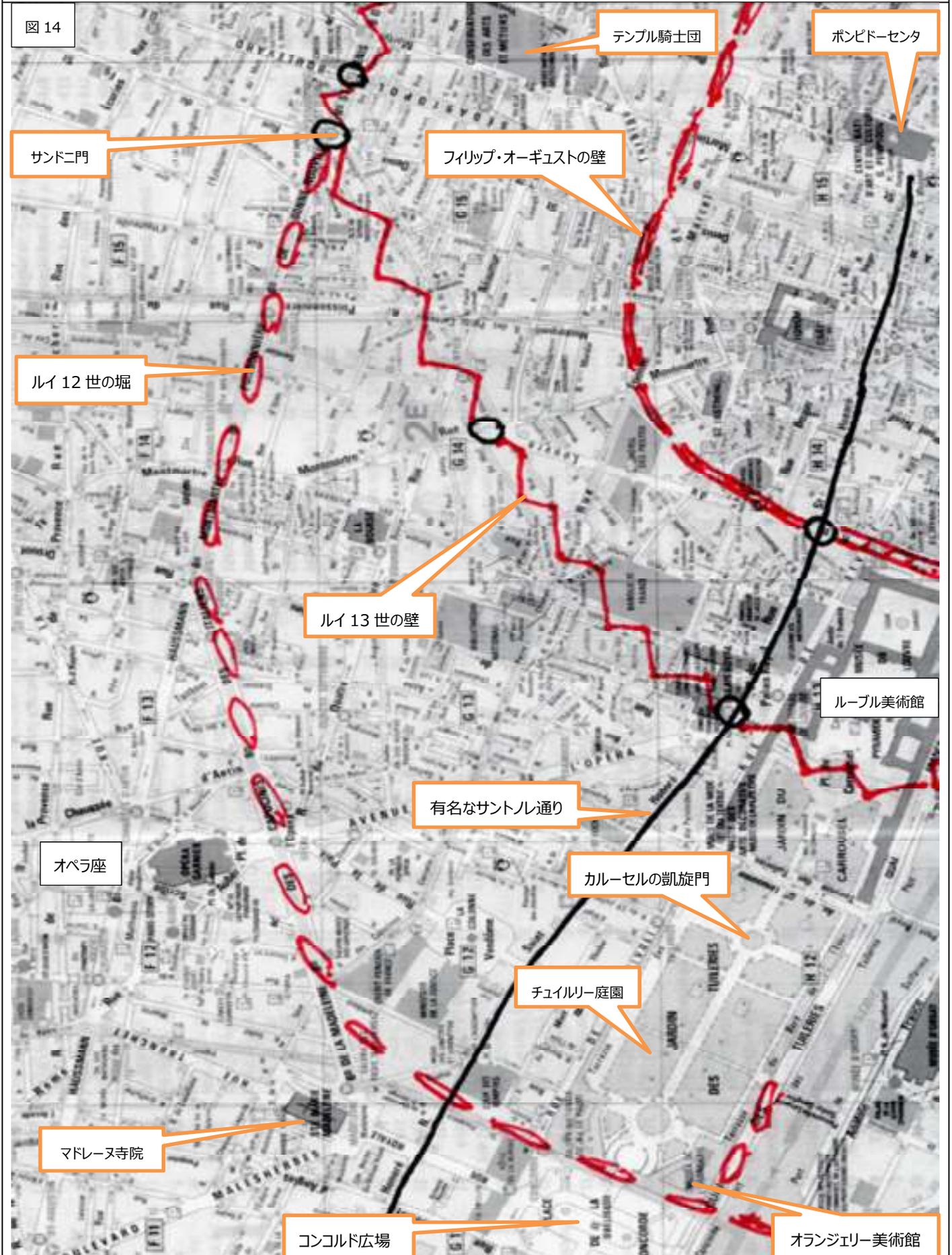


6. 百年戦争が終わって約 200 年の間もパリの壁は強化されてきた。その理由は何だろう？

- ① 百年戦争の最中から、ブルゴーニュ大公国の急伸でフランス国内にブルゴーニュ派とオルレアン派の戦いが発生した事、
- ② ドイツから始まった宗教改革は、スイス・ジュネーブのカルヴァン派などを通じてフランス国内に拡大し、パリではカトリックとプロテスタントの血みどろの戦いが多発するなど、政情不安になって、城壁の強化が図られた。

この続きは、次回の「フランス城郭シリーズ 5」に譲ることとする。

付録3 現在のパリの地図に、フィリップ・オーギュストの、シャルル5世/ルイ13世の壁、ルイ12世の堀を記入した図



「ルイ12世の黄色い堀」は埋め戻されて広い大通りになっている。セーヌ川手前がある、**モネの睡蓮**で有名なオレンジリー美術

館は堀の最後の部分に、チュイルリー庭園にあった柑橘類 orange の木々を移植した経緯からオランジェリーと名付けた。以上